民党選挙対策委員長などへ陳情を行いました。

造船業は、昨秋に誕生した高市政権による日本成長戦略本部において、官民の連携で重点投資する17の戦略分野に明記され、昨年末、国土交通省と内閣府は造船業再生ロードマップを発表し、さらに政府が閣議で決定した総合経済対策において、経済安保上の重要な分野に指定されるなど、民間努力で支えてきた造船業に、やっと国策として光が当たることになりました。

私は、この国の動きに感謝を申し上げたのはもちろんですが、国による造船業界へのインフラ・設備投資等への支援だけではなく、イワキテック硬式野球部の誕生によって若い人材の確保・定着に顕著な効果が現れていることも踏まえ、現場で働く人たちの待遇改善や福利厚生の充実を強く訴えてまいりました。

同日には、東京での要望活動の合間に、7日付で異動された国交省・総務省幹部の方々に挨拶回りを行い、上島町の現状説明と要望をお伝えしてまいりました。

8月15日には、愛媛県県民文化会館メインホールでの、令和8年度愛媛県戦没者追悼式に参列いたしました。当日は、上島町遺族会を代表して、町内の戦没者のご遺族8名も参列され、知事から戦没者への追悼の言葉や愛媛大学合唱団による献唱の元、厳粛な雰囲気の中で戦没者を追悼するとともに、平和の尊さを改めて考える機会となりました。私もご遺族や関係者の皆さまとともに、戦争によって失われた多くの尊い命に思いを寄せるとともに、戦後81年を迎え、戦争の悲惨さや平和の尊さを次の世代へ語り継いでいくことの重要性を改めて強く感じました。

さて、国の来年度予算概算要求基準が7月30日に閣議了解されました。

高市政権下での取りまとめは初めてで、27年度は「責任ある積極財政」と強調され、新設された「強く豊かな日本」投資枠にはシーリングを設けず、補正予算に依存してきた政策を当初予算に計上する方針を打ち出しました。

このため、概算要求総額は140兆円を超え、4年連続で過去最大となる見通しであり、例年以上に厳しい予算編成が予想されます。

一方、上島町の令和7年度決算における財政状況ですが、地方公共団体の財政の健全性を判断する4つの指標のひとつである「実質公債費比率」は、14・0%となり、前年より0・4%改善されました。

減少の要因としては、事業の見直しに取り組んだこと、地方債の償還にともない、元利償還金の額が減少したこと、普通交付税の額が増加したこと等によるものです。

この14・0%という数値は、国が示す早期健全化基準25%や地方債の発行に際して県の許可が必要となる18%を下回っており、健全な数値を示しておりますが、将来的に財政構造の硬直化を招かないよう、今後も地方債の新規発行抑制に努めてまいります。

また、7月24日に愛媛県より普通交付税額の決定通知があり、令和8年度の上島町への普通交付税は33億4256万4千円で、前年度比946万1千円、0・3%増となっています。

その要因は、町民税等の増により基準財政収入額は増加したものの、給与改定や物価高に対応した算定のほか、臨時財政対策債償還基金費が創設されたことなどにより、基準財政需要額が増加したためです。

今後、限られた財源の中で、将来にわたり持続可能な行財政運営を行うため、独立採算を原則とする企業会計の使用料見直しについても検討を進めておりますので、議会や町民の皆さまのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

結びに、今年は4年に一度のサッカーワールドカップが開催され、世界中に感動を与えたのはご案内の通りです。日本代表も優勝を目指せる実力をつけ、その試合内容は高く評価されました。それ以上に私が日本人として誇りを覚えたのは、使用したロッカールームを試合後に毎回整理整頓し、感謝の言葉や折り紙を残して去った日本代表の行動です。また、森保監督が敗戦後にピッチに向かって90度のお辞儀をする姿や、日本のサポーターがスタンドを清掃する姿は、「規律、秩序、敬意を重んじる姿勢は世界中の模範」とも称賛されました。

上島町は小さな田舎町ですが、どこにも負けない歴史や美しい景観、豊かさがあります。

私は、この日本代表のように「強さ」だけではない「品格」を持ち続ける町でありたいと考えています。

なお、8月にフィンランドで開催された「モルック世界大会」において、上島町の職員が所属するチームが優勝したことをお知らせしておきます。

上島町長　上村俊之

SDGs

SDGs Sustainable Development Goals vol.20

「上島町のくらし× SDGs」

～あなたの願いが、世界を変える（前編）～

4月号から、上島町の補助制度やイベントなどを通して、自分たちの暮らしに身近な SDGs を紹介してきました。今回は、毎年ビーチクリーンイベント「みんなのおそう島」を開催し、「目標 14　海の豊かさを守ろう」の実践に取り組んでいる 国際教養大学 2 年生　兼頭 玄さんに、SDGs への思いについて寄稿していただきました。

あなたにとって、**SDGs** とは何ですか。いつからかテレビや新聞に取り上げられ、偉い人がバッジを付け、今やこのスローガンを見ない日はない SDGs。だけど、17 個もあるというゴールは覚えられないし、**自分事には感じないな**あ。そう感じている人は多いのではないでしょうか。

私は**その感覚こそ正しい**と思うのです。全世界共通のゴールであると言うが、誰が、何を基準に決めたのか。SDGs、すなわち持続可能な開発目標の「開発」とは何をすることで、それを「持続」させるとはどういうことか。そう、全体的によくわからないのです。

一方で、私たちの生活には、確かに不安なことが色々あります。気候変動による災害、国際情勢の緊迫、物価の上昇と生活苦、若者の流出。そんな不安に、どう向き合っていくべきでしょうか。

意外と似ている、ネパールと上島町



2026 年 8 月、私は約 1 週間ネパールに滞在しました。この国はインドと中国に挟まれ、世界で一番高い山エベレストがある国です。私は田舎でのホームステイでネパール人たちとの出会いを楽しみました。

彼らは私を温かく迎え入れてくれ、地域内ではよく助け合って暮らしていました。以下は、私の手記の一部です。

“ホストのお宅では、子どもたちが暗くなるまで遊び、晩ご飯を一緒に食べ、賑やかで温かな日常を体験した。翌朝、子どもたちが 6 時から私を散歩に連れ出す。「この草は風邪に効くんだよ」「癌の薬に使われてる草だよ」「オジギソウ、知ってる？」と、色々な植物の葉を千切っては、どこか誇らしげに教えてくれる。暮らしの中に生きる知恵が根付いているのだ。一通り歩いたら、ホストブラザーの友達が家に招待してくれた。そして少女のご両親が朝のチャイをごちそうしてくれたのである。”

私は故郷の上島町で、たくさんの「**豊かさ**」を感じてきました。おせったい、だんじりをやったこと。筍やきのこの採り方を教わったこと。島にいたからこそ、人の温かさを知ることができたし、自然の中で生きるということを理解することができました。こんな**世界で最高の故郷を将来世代に残したい**、そう思ってきました。

そして、ネパールの村の**優しくてゆったりした空気と時間**は、どこか上島町の「豊かさ」に似ていました。 私は滞在期間を通して、世界中に豊かさが眠っていることに気づかされたのです。

「何もない」と思われがちな**小さな島、小さな村にこそ豊かさが存在する**ということを意識した時、身近なところにこそ未来の希望があるのだと分かりました。

一方で、小さな地域には困りごとも多いでしょう。次回は、その困りごとと地域が持つ豊かさを、どうすれば未来につなげられるのか、私の考えをお話ししたいと思います。



筆者の紹介

兼頭　玄　2007年 3月 31日生。0歳から 15歳まで弓削島で過ごす。2025年愛媛県立松山東高等学校卒。現在は秋田県の国際教養大学に在学中。来年度からの 1年間の交換留学に向けて準備中。やっぱり島のひじきが一番おいしいと思っている。いつか、かわいいお嫁さんと島に戻ってくるのが夢。



問い合わせ
企画情報課
☎77-2500